

# 令和5年度事業報告

代表理事 大田 慎三

## 保健医療の調査研究事業

### 1. 睡眠の調査研究

大田浩右、小林奈美  
協力 明神館クリニック  
福山健康舎

子どもの睡眠教育とその効果に関する調査研究

今年度は、乳幼児保育の現場である保育園に講演会の案内を送付し、講演会参加者にアンケート調査を行った。参加者の関心が高い領域は不眠症とゲームスマホ依存であった。自由記載より、保育園での照明や音の環境について見直したいという意見や親や祖父母へ伝える重要性を実感したという意見があった。この結果を踏まえ、子どもの睡眠に多大な影響を及ぼすゲーム依存に焦点を当て、不眠症の認知行動療法の現状について文献調査を実施、それをもとに、ゲームの使用制限をせずにゲーム依存症を治療するための大田式ゲーム依存治療法を考案した。

【資料】「乳幼児・子どもの睡眠が危ない」参加者調査のまとめ

ゲーム依存の予防と治療

### 2. 脳血管障害に関する臨牀からの調査研究

大田慎三、小林奈美

「より安全な血管内アプローチを可能にする脳動脈瘤画像アセスメント法：四輪法の勧め」

「内頸動脈起始部狭窄症に対する治療法、治療成績、予後に関する調査研究」

「人に優しい血管内治療(2008年発行)」の後続版として新たな治療法(パイプライン、ブラッドパッチなど)と症例を冊子にまとめる。

→作業継続中。今年度はパイプライン、ブラッドパッチなどの症例を収集した。

### 3Dプリンターによるモデリングを利用した臨床支援のための技術研究

適切な水泳姿勢保持のためのスイムフロートの開発

→作業継続中。今年度は、特許公報に掲載されている特許・実用新案、意匠について調査した。

令和5年12月現在の状況を表にまとめた。考案するスイムフロートの独自性について確認した。

【資料】国内特許ポータルサイトの検索結果表

※米国特許出願中のインラインスケートについては、2024年12月中旬に実体審査開始の予定。

### 3. がんの早期発見と治療に関する調査研究

市民啓発事業で行っているがん相談に応じるために収集した各種情報から、がんの早期発見・follow upに向けた最近の動向に注目した。MRI DWIBSの画像情報が無侵襲・無被爆かつ、がん

の早期発見・follow up に重要な役割を果たすことに注目している。治療については統合化学療法の研究を継続している。研究の成果として、継続事業3でも報告しているが「統合化学療法、免疫活性化療法 Hope」を作成した。また、日本癌治療学会での発表に向けて準備している。

医療 DX による生活習慣改善支援の研究－パーソナルヘルスレコードの活用

がん、認知症などの生活習慣病予防に対する各種検査データ、診療記録などのパーソナルヘルスデータを活用する研究のため、各種医療データ収集のための医療機器と電子記録システムの導入を開始した。学会、シンポジウムなどに参加して最新知見の収集を行っている。

#### 4. ライフステージに応じた健康な睡眠を促進する家庭環境に関する研究

小林奈美

子どもの睡眠障害と心身症およびその重症化予防のための家庭環境に関する文献研究

→前年度の学童(6歳～12歳)に引き続き、13歳～18歳の思春期・青年期を対象に文献レビューを実施した。思春期の睡眠障害と家族の研究では、乳幼児や学童期の睡眠障害でも ADHD や自閉症などの発達障害と家族との関係は示唆されたが、思春期ではさらに身体的症状を伴う疾患と家族との研究が上位にあり、地域ではアジアよりオーストラリア、北米の研究者による発表が上位であった。

【資料】思春期・青年期の睡眠障害と家族・家庭環境についての文献研究

前認知症(SCI/MCI)の高齢者とその家族が日常生活能力を効果的に維持するための取組みに関する文献および症例研究

→今年度は、SCI/MCI、認知症の高齢者とその家族との対話について、主訴に対する助言の内容を質的に分析中である。

※次年度より1. 睡眠の研究に移管する。

### 市民健康啓発事業

#### 1. 健康に関する資料等の作成・発行(電子媒体を含む)

大田浩右、小林奈美

2017年10月に時空出版から出版した「進行がんステージ4でも怖くない」の簡易要約版、「がんが消える-Hope」を作成し、希望者に配布した。

【資料】がんが消える-Hope

#### 2. 市民公開講座

大田浩右、小林奈美

渋谷長寿健康財団が贈る家庭の医学シリーズ

「乳幼児・子どもの睡眠が危ない」講師:大田浩右

令和5年9月16日(土) 15時～16時 ローズコム図書館大会議室(福山市)

講師:大田浩右

エアコン故障のため猛暑の中、大型扇風機10台と冷風機を使いながらの講演だったが、

一般市民 65 人が参加した。

「ゲーム依存の予防と治療」ゲームを制限しないで治す認知行動療法

令和 6 年 3 月 23 日(土) 15 時～16 時 ローズコム図書館中会議室(福山市)

一般市民 60 人が参加した。参加者アンケートより、自分でも取り組みそうなのでやってみ  
たい、小中学校で講演してほしいなどの意見があった。スマホ・ゲーム依存に対する関心は  
高かった。

【資料】アンケート集計結果

### 3. 無料相談ホットライン:がん相談ホットライン

大田浩右、中川多恵子、小林奈美  
協力 明神館クリニック

末期がんの方々を対象に無料相談を行っている。

前年度同様にごがん相談を実施した。今年度の相談者は 9 人(男性 7、女性 2:40～81 歳)  
であり、癌の部位やステージはさまざまだった。相談内容は、丸山ワクチンが多かった。

【資料】がん相談内訳

### 4. ゲルソン食事療法の啓発事業

小林奈美、大田浩右  
協力 福山健康舎

Healthy food サムサーラ 陽だまりの家は、コロナ感染症の影響を受け、来場してのセミ  
ナーは開催できなかったが、ホームページで健康食に関する情報を発信した。作成した  
HP は生活習慣見直し啓発事業に移管する。

### 5. 生活習慣見直し啓発事業

大田浩右、小林奈美  
協力 明神館クリニック

財団発行の冊子等を使用して生活習慣の見直しが必要な人に生活指導を提供した。

今年度の指導延べ数は 167 人(4 月～10 月:14 歳～89 歳)。若年層は「朝起きられない子ども  
たち」、中高年層は「認知症の予防と治療」を活用した。中高年層のための生活習慣病予  
防向けには、油の種類、慢性腎臓病予防の食事・運動療法、骨量・SMI の説明資料を活用し  
た。全年齢において睡眠指導、運動指導、心理療法・カウンセリングのニーズがあった。

【資料】生活指導・相談の内容と実数

## 保健医療・福祉の顕彰事業

### 澁谷昇賞

第 9 回澁谷昇賞社会功労賞の授与を以下のとおり行った。

受賞者:広島県尾道市立大名誉教授 平松携(すがる)氏 (78)

贈呈式:令和 5 年 11 月 19 日(日) 11 時～13 時

福山ニューキャッスルホテル 富士の間

【資料】贈呈式の記録